

豪華共演！ワーグナー「タンホイザー」 ウォルトン「ベルシャザールの饗宴」



指揮
松井慶太



バリトン **大沼 徹**
「タンホイザー」ヴォルフラム



ソプラノ **田崎尚美**
「タンホイザー」エリーザベト



管弦楽 **日本フィルハーモニー交響楽団**
金管アンサンブル **東京吹奏楽団**



バリトン **萩原潤**
「ベルシャザールの饗宴」

今 望み得る最高の出演陣で挑む、至高の名曲！

ウォルトン作曲

オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」

旧約聖書の「バビロンの滅亡」を題材にしたオラトリオです。

紀元前6世紀、新バビロニア王国はユダ王国を滅ぼし、多くのユダヤ人を首都バビロンに連れ去りました。その数十年後、バビロニアのベルシャザール王が、盛大な酒宴を開き、エルサレムの神殿から奪い取った神器を用いて異教の神々を称え、ユダヤの神を冒瀆していると、突然空中に手が現れ、バビロンの崩壊を告げる文字を壁に書きます。その夜、王は殺され、バビロニアは分裂、ユダヤ人たちは自由を取り戻しました。

1902年生まれの子イギリスの作曲家、ウィリアム・ウォルトンは29歳でこの曲を作曲しました。当初は小規模の合唱曲を依頼されていましたが、構想が進むうちに、サクソフォーンの加わるオーケストラのほか、オルガンと別の金管群の追加、打楽器部門の大編成化、さらに8声の混声合唱とバリトン独唱の起用など非常に大規模なアンサンブルが採られることになりました。

ジャズなどの影響を感じさせるモダンな魅力にあふれ、名指揮者、カラヤンが「20世紀最高の合唱曲」と讃えた傑作です。

ワーグナー作曲 歌劇「タンホイザー」

1845年に初演、全3幕からなるオペラ。舞台は13世紀初頭、ドイツ・チューリンゲン地方のヴァルトブルク城。愛欲の女神ヴェーヌスが棲む異界で官能の日々を送っていた騎士で吟遊詩人のタンホイザーが、故郷へ帰り、かつての恋人エリーザベトや親友ヴォルフラムの助けを借りて「魂の救済」を求め悲劇。

今回は、①城で開かれる歌合戦のため、領主を讃えながら入場する人々の合唱「大行進曲」。②エリーザベトが歌合戦の行われるホールを讃えるソプラノ独唱「歌の殿堂のアリア」。③エリーザベトがタンホイザーを救済するために自らの死を決意したことを知ったヴォルフラムが切々と歌うバリトン独唱「天星の歌」。④ローマへの旅から帰って来た巡礼者たちが帰郷の喜びと神への感謝を歌い上げ、彼らを待ち受けるエリーザベトとヴォルフラムの声が交差する「巡礼の合唱」。⑤全幕のフィナーレで、奇跡が起こり、タンホイザーの魂が救済されたことを告げる巡礼者たちの歌。以上5曲を演奏します。ワーグナーが生涯を通して追求したテーマ、「愛・死・魂の救済」を壮大な音楽で描きます。

武蔵野合唱団

1955年、武蔵野市緑町の自治会サークルとして発足、2025年には創立70周年を迎えるアマチュア合唱団。小林研一郎氏をはじめ、下野竜也氏、山田和樹氏、松井慶太氏等の指揮のもと都心部及び地元武蔵野市で自主演奏会を開催し、国内外のオーケストラ・アーティストと共演を重ねてきた。

今回、主催演奏会でのオーケストラとの共演は5年振りとなる。華々しく煌びやかなオラトリオ「ベルシャザールの饗宴」と初めての挑戦となるオペラ「タンホイザー」からの名曲抜粋で新しい境地への一步を踏み出す。

公式ホームページ <https://musashino-chorus.com/>にて団員募集中。